

栃木県中学校長会報

会長あいさつ



栃木県中学校長会長
宇都宮市立宮の原中学校
校長 柿 沼 敬 二

昨年は「全日本中学校長会研究協議会 栃木大会」を開催いたしました。柳田大会実行委員長さんを中心に172名の結集された力を発揮し、みごと成功のうちに終了することができました。本年は、その力を十分に学校経営にむけると共に、本会活動の推進・充実に努め、本県中学校教育の振興を図ってまいりたいと思います。

さて、過日3月15日には、基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、個性を生かす教育の充実、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成、豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成、文化と伝統の尊重と国際社会の中で主体的に活動をしていく日本人の育成の4つが柱になった学習指導要領が告示されました。更に、3月27日には、移行措置要領並びに移行期間中における学習指導が示され、移行期間初年度の本年は現行学習指導要領の枠内で新学習指導要領の趣旨を生かして実践するよう求められています。

本会でも先年度は、教育改革検討特別委員会が「中学校における選択教科拡大にともなう教育課程の編成について」の調査をいたしました。それを受けて本年度は、研究部が「新教育課程の編成に関する研究」をテーマに研究をすすめることになっております。新教育課程全面実施の平成5年度までは、まだ期間はありますが、移行期をむかえた現在、改訂の趣旨をふまえ、やれることから改善していく積極的な姿勢が必要だと思っております。

また、中学校では、来年度から実施されます初

任者研修につきましても、円滑に実施できるようにこの制度についての教職員の理解を深めることや学校課題解決にむけての種々の校内研修、個人研究等の推進に努め、我々を含めて教職員の資質・能力の向上に努力してまいりたいと思います。

学校現場には難しい問題もあろうかと思いますが、教育を変えるのは現場の我々である、との意識をもち、校長としてのリーダーシップを発揮し21世紀を展望しての新しい活気ある学校づくりに取り組んでいきたいと思っております。

生徒指導に目をうつしますと、中学生に関わる問題はまだ、数多く残されております。本県における最近の問題行動をみますと、校内暴力、いじめは一時よりは減少したものの、全国の傾向と同様に登校拒否等の長期にわたる欠席生徒数が増加の傾向にあり、学校における早期発見と援助指導が望まれております。また、女子非行も増加の傾向にあり、更には、シンナー等の薬物乱用は北関東地区に多いと聞いております。

きめこまかな、そして、学校としてなすべきことを着実に実践し、家庭や地域・関係機関との連絡・連携を密にして、複雑多岐にわたる原因を一つ一つ除去していくことに一層の努力を傾注し、登校拒否生徒数の減少並びに問題行動の解消に緊急の課題として努力してまいりたいと思っております。

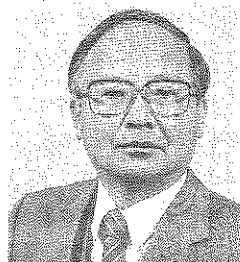
また、本年度は栃木県教育委員会及び栃木県市町村教育委員会連合会が昭和62年度より推進してまいりました「いきいき栃木っ子3あい運動」の最終年度でもあります。学校教育の活性化を目指すこの運動の自校化を促進し、積極的な生徒指導を通して、豊かな人間関係を築くことにより、いきいき栃木の子どもたちの健全育成を図るよう努めてまいりたいと思っております。

我々のもつ課題は多くありますが、校長の使命に徹し、研鑽を積み、識見を高め、実践し、一層の本県中学校教育の充実・発展に努めてまいりたいと思っております。

(総会での、会長あいさつより)

教育改革実践の年

栃木県中学校長会副会長
宇都宮市立泉が丘中学校
校長 池田 久



皆様のご推薦をいただき、本年度副会長の重責を担うことになりました。微力ですが、本県中学校

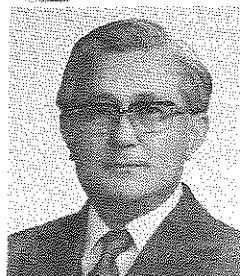
長会の充実振興のため努力する所存ですので、よろしくお願いたします。

さて、平成元年度は、教育改革実施の年であり、この3月に新学習指導要領が告示され、中学校としては、平成5年度から全面実施になります。各校とも新指導要領の移行・全面実施への研究がなされています。学習内容を十分に身につけることは、本来、学校教育の基本的なねらいであり、各学校とも「学力向上」「基礎学力の充実」など、表現は違っても重点課題として努力されています。

しかし、「学力の不振」は、問題行動、高校中退など、各方面に問題を波及させています。今回、とくに、学習指導要領で習熟度別指導が取り上げられたのも、子供一人一人の教育をより一層大事にしようとする表れであります。そのために、個に応じた指導として、習熟の程度に応じた指導ということが欠かせないものと思います。今後、各学校は生徒の実態等に応じ指導方法の一層の工夫改善を図っていくこと、中学校長会としても、教育課程の編成の基準として示された指導要領を確実に具現するために研究を進めていくことが急務であります。また、校長としては、社会変化のげんげしい時に将来を見通した洞察力と指導性が強く求められています。この時に当り、校長として自ら研修に励むとともに、長い間の教職の経験を生かし、教職員を適切にリードしていくことが、今、最も期待されているものと思います。

いま学校教育の活性化で 求められていること

栃木県中学校長会副会長
鹿沼市立北中学校
校長 藤田 剛



学校教育で個性重視と活性化が叫ばれて久しい。これを目指して数々のイベント、特に競争的な手

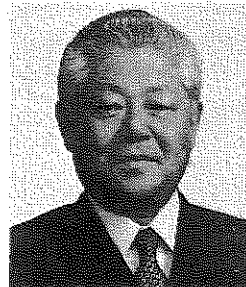
法が工夫されている。運動競技の推奨、学習成果の発表会、各種コンクールの工夫や導入等々である。これによると、例えば清掃のような地味な活動も予想外の成果をおさめることがある。

しかし競争は、仕事や学習に緊迫感を加味して行動を活気づける一方、ある者に対しては劣等感や挫折感をもたらして思わぬ行動に走らせることもある。競争というのはい定の目標に向かって一定のコースを辿らせることによって成立するもので、個性重視とは方向的に必ずしも一致しない。競争させる側が掲げる目標に合わせて自分を形成することが出来ない者は落伍してしまう。競争の上位にある者は成果自体から成就感を得ると同時に、教師に認められ家族に祝福されて二重の喜びが味わえるがそれは少数で、かなり多くの者が競争内容の本質やよさに触れる以前に心を閉ざしてしまうことが少なくない。さらに、競争の“より早く、より多く”という意識は、学習成果の徹底を期そうとする「正確に」~~ノ~~という学校の基本的要請に反対に作用することもある。

そこで学校が、個性重視を根幹とする教育の活性化で何よりも求められていることは、特に高度な専門的技術を意図する以外は競争ではなくて、みんなと一緒にやること自体に喜びが持てて、自分なりに努力すれば何とか友達並みの成功感が味わえるもの、あるいは仮りに競争的要素をとり入れるとしても、級友との協力によって気軽に楽しく競合出来て、負けてもあまり苦にならないものなどを工夫し提供することではないかと思う。

退任にあたって

前栃木県中学校長会長
(前宇都宮市立
一条中学校長)



柳田 明

県中学校長会の皆様方、しばらくでした。

平成元年3月31日付で定年退職をいたしました柳田でございますが、大関編集部部長さんの御依頼により、一言、退任のごあいさつを申し上げます。

県中学校長会に籍を置いた13年間、特に最後の2か年間は、会長として、皆様方には、種々お世話になりまして本当にありがとうございました。

この間、いろいろの思い出はございますが、何といても忘れられないのは、全日本中学校長会

研究協議会栃木大会のことであります。準備委員長、実行委員長として本大会開催に携わったのですが、前々年度には、全国都道府県からの参加人数の割当、各分科会への出席割当てや、主会場、8分科会の会場決定等に始まり、組織作りや、度重なる会議・打合せ、前年度には国技館で、当年度には虎ノ門ホールで、開催県代表あいさつをしたこと等、今懐かしく思い出されます。

何はともあれ、私自身は微力ではありましたが、何とか開催に漕ぎ着け、実施できましたのも、偏りに県内172名の中学校長各位の絶大なご協力、ご支援、ご尽力の賜でありまして、ここに改めて衷心より感謝を申し上げる次第でございます。

さて、現在中学校においては、新学習指導要領の研究や初任者研修完全実施に向けての対応等々いろいろと解決すべき課題が山積しております。

校長各位におかれては、充分健康に留意されてご精励あらんことをご期待し、祈念申し上げます。

平成元年度各専門部 活動計画

調査部

部長 池田 久

1. 役員選出と事業計画の作成
。6月9日、教育会館にて専門部会を開催し、協議した。

- (1) 役員 副部長 坂本 光唯(栃木南中)
“ 小林 喬夫(小山・絹中)

(2) 事業計画

- ① 中学校教育に関する調査
 - ② 県中学校長会ならびに各専門部の活動に必要な調査と資料の提供
 - ③ 他県中学校長会、教育諸団体との連携と資料の交換
 - ④ 調査結果や収集資料の配布
2. 中学校教育に関する調査

この調査は、全日中校長会調査部との共同調査で、去る5月に実施しました。調査に当って

は、県教育委員会の義務教育課と高校教育課にそれぞれ資料提供をお願いしご協力いただきました。また、項目によっては、県下全中学校の悉皆調査の必要があったため、全中学校長各位のご協力を、とりわけ、各地区調査部の校長各位には、地区の集計事務についても、特段のお骨折りをおかけいたしました。厚く感謝申し上げます。

次の表は、本県の初回(昭48年)及び前年度と本年度との比較をしたものです。

比較項目	昭48.4.1	昭63.5.1	平元5.1	
給料	初任給(大学卒)	51,900円	138,600円	142,200円
	勤続10年	78,400円	223,400円	228,700円
	勤続20年	111,800円	321,300円	321,400円
	勤続36年(校長)	146,400円	414,900円	424,300円
旅費(1人当たり、年間)	24,100円	67,800円	67,800円	
校長退職年齢(勲奨)	58才	60才	60才	
生徒数	78,836人	94,771人	91,252人	
教職員(校長、教頭、教諭、養護教諭等)	3,588人	4,332人	4,338人	

研修部

部長 安川 一 男

1. 平成元年6月7日(金)、教育会館にて専門部会を開き、今年度役員を選出と年間事業計画を作成した。

(1) 役員 部長 安川 一男(宇・陽東中) 副部長 横嶋 孝夫(河・上河内中) 〃 卷島 秀世(栃・吹上中)

(2) 事業計画

- 6月9日(金) 教育会館で研修会を開催し、研究テーマの確認、年間事業計画の作成、事業計画推進などについて協議する。
7月8日(土) 教育会館において、第11回県中学校長会研究大会開催について協議する。
9月8日(金) 第11回県中学校長会研究大会を開催する。
12月8日(金) 研究集録の発行について編集会議を開催する。
2月23日(金) 研究集録の発行と配布予定

2. 研修部活動内容

(1) 第1回研修部会、6月9日(金) 10時より教育会館にて、年間事業計画、事業の推進、研究テーマ等について検討及び確認する。

研究テーマ「新教育課程の編成に関する研究」

(2) 第2回研修部会、7月8日(土) 10時より教育会館で行う。主に県中学校長会研究大会の運営について検討する。

(3) 9月8日(金) 県中学校長会研究大会実施 日程 受付 9:30~9:50 開会行事 9:50~10:20 分科会 10:30~12:00 昼食・休憩 12:00~13:00 分科会報告 13:00~13:20 講演 13:30~15:10

演題「今後における中学校教育の展望と課題」 講師 全日中研修部長 高山 昌之先生 会場 栃木県子ども総合科学館

(4) 第4回研修部会 12月8日(金) 13時より教育会館で行う。

内容 研究集録の編集、発行について協議

(5) 研究集録の発行

編集部

部長 大関 三 良

○6月7日に県教育会館において、第1回の編集部会を開きました。話しあいの結果役員は次のようになりました。

部長 大関 三良(宇・陽西中) 副部長 有沢 弘一(栃・栃木東中) 〃 浜野 正美(河・本郷中)

○なお、平成元年度は次の期日をめやすに会報の発行を中心とした活動を展開することになりました。

- 第2回編集部会(6月)第71号の発行について話し合う。9月に発行予定
第3回編集部会(11月)第72号の発行について話し合う。

○平成元年度の編集部の方針はおよそ次のとおりです。

- 内容としてはこれまでのものを踏襲していくこととします。
ページ数も10ページ前後を保持します。
内容の充実をはかるためご意見がありましたら会員の皆様のご意見をいただく。
校長会だけの記事に限定しないで県内の他の団体等の活動も必要に応じて紹介し会員に理解していただく。そのような意味で第71号では、僻地教育の全国大会(栃木大会)や、特活の全国大会(栃木大会)について原稿をお願いしたわけです。

以上のようなことですので、本年度もどうぞご協力の程お願いいたします。

職員対策部

部長 小原沢 千 壽(宇・若松原)

平成元年6月9日(金)、県教育会館で専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定しました。

(1) 役員

部長 小原沢 千 壽(宇・若松原) 副部長 老 沼 藤 男(下・石橋中)

副部長 齊 藤 光 司(塩・矢板中)

(2) 本年度の計画

講話 退職後の生活設計 期日 平成元年12月8日(金) 場所 県教育会館 講師 県福利課長他

(3) 研修内容

一退職と退職後の課題一

- ① 医療制度
任意制度組合員制度
継続療養
短期給付
② 退職手当
退職手当の種類
退職手当の計算
各種課税等
③ 年金の計算方法
年金の計算
年金の支給
厚生年金との調整

※ 講話 退職と退職後の課題(福利厚生部と共催の予定)

進路対策部

部長 関 平(宇都宮市立鬼怒中) 副部長 橋 本 良 平(佐野市立南中) 〃 三 森 一 伸(大田原市立大田原中)

《平成元年度活動計画》

1. 第1回研修会(主として公立高校関係)

とき 平成元年7月11日(火) ところ 於 教育会館 助言者 県教委高校教育課主幹廻谷郁夫先生 全課長補佐兼指導係長青木克美先生 全義務教育課指導主事渡辺紘夫先生 私立高代表佐野日大高長寺内治男先生

- 内容 1) 「平成2年度公立高校入試に関する諸問題」 特に学科再編、募集定員などについて
2) 「公立高校の整備計画の見通し」
3) その他

2. 第2回研修会(主として私立高校関係)

とき 10月中旬ごろ ところ 栃木県教育会館 助言者 私立高校県内代表 校長先生 県教委高校・義務、進路関係担当者 県・文書学事課、私立高校担当者 内容 1) 現中学3年生 生徒数・進路希望、状況など現状分析
2) 私立高募集要項の骨子、生徒の状況、募集定員など。
3) 公立高校の推薦、面接導入見込み、課題など。
4) その他

修学旅行部

部長 影 山 長 八

本部会は修学旅行本来の使命達成を目的とし、特に関西方面への輸送の円滑化と学習効果の向上に寄与するための部会であります。その事業は、主として調査研究、資料の収集、その他関係機関との交渉、総合的輸送計画の樹立等であります。なお、本部会は関西方面への修学旅行を実施する中学校をもって組織し、部の運営を図るということであります。更には、本県だけの独立した組織機関ということだけでなく関東地区公立中学校修学旅行委員会(茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、以上関東五県)に加入し、相互の連絡を密にし、実施時期の調整、合理的でしかも安全な輸送計画を立案するという大きな役目をもってあります。

ちなみに、関係委で取り扱った平成元年度の輸送人員は、学校数818校、生徒数207,711名でした。本県は、133校、27,923名という数字になっております。こうしたことから各県との親密な協調と、関係機関の協力を得てより新鮮で魅力に富んだ修学旅行を創生し、生徒の望ましい人間形成を積極的に推進する活動を続けていかなければならないと考えます。

私も本年度の部長として13名の各地区代表各位のご協力を得て、先輩が残した業績を大切にし微力ではありますが責めを果たしてまいりました。その中でも、本県中学校172校中、133校が関

☒ 研修部

部長 安川 一 男

1. 平成元年6月7日(金)、教育会館にて専門部会を開き、今年度役員の選出と年間事業計画を作成した。

- (1) 役員 部長 安川 一男(宇・陽東中)
副部長 横嶋 孝夫(河・上河内中)
" 卷島 秀世(栃・吹上中)

(2) 事業計画

- ・6月9日(金) 教育会館で研修会を開催し、研究テーマの確認、年間事業計画の作成、事業計画推進などについて協議する。
- ・7月8日(土) 教育会館において、第11回県中学校長会研究大会開催について協議する。
- ・9月8日(金) 第11回県中学校長会研究大会を開催する。
- ・12月8日(金) 研究集録の発行について編集会議を開催する。
- ・2月23日(金) 研究集録の発行と配布予定

2. 研修部活動内容

- (1) 第1回研修部会、6月9日(金) 10時より教育会館にて、年間事業計画、事業の推進、研究テーマ等について検討及び確認する。

研究テーマ「新教育課程の編成に関する研究」

- (2) 第2回研修部会、7月8日(土) 10時より教育会館で行う。主に県中学校長会研究大会の運営について検討する。

- (3) 9月8日(金) 県中学校長会研究大会実施

日程	受付	9:30~9:50
	開会行事	9:50~10:20
	分科会	10:30~12:00
	昼食・休憩	12:00~13:00
	分科会報告	13:00~13:20
	講演	13:30~15:10

演題「今後における中学校教育の展望と課題」

講師 全日中研修部長 高山 昌之先生
会場 栃木県子ども総合科学館

- (4) 第4回研修部会 12月8日(金) 13時より教育会館で行う。

内容 研究集録の編集、発行について協議

(5) 研究集録の発行

☒ 編集部

部長 大関 三 良

○6月7日に県教育会館において、第1回の編集部会を開きました。話しあいの結果役員は次のようになりました。

- 部長 大関 三良(宇・陽西中)
副部長 有沢 弘一(栃・栃木東中)
" 浜野 正美(河・本郷中)

○なお、平成元年度は次の期日をめやすに会報の発行を中心とした活動を展開することになりました。

- ・第2回編集部会(6月)第71号の発行について話し合う。9月に発行予定
- ・第3回編集部会(11月)第72号の発行について話し合う。

○平成元年度の編集部の方針はおよそ次のとおりです。

- ・内容としてはこれまでのものを踏襲していくこととします。
- ・ページ数も10ページ前後を保持します。
- ・内容の充実をはかるためご意見がありましたら会員の皆さんのご意見をいただく。
- ・校長会だけの記事に限定しないで県内の他の団体等の活動も必要に応じて紹介し会員に理解していただく。そのような意味で第71号では、僻地教育の全国大会(栃木大会)や、特活の全国大会(栃木大会)について原稿をお願いしたわけです。

以上のようなことですので、本年度もどうぞご協力の程お願いいたします。

☒ 職員対策部

部長 小原沢 千 壽(宇・若松原)

平成元年6月9日(金)、県教育会館で専門部会を開き、本年度の組織及び事業計画を協議し、次のように決定しました。

(1) 役員

- 部長 小原沢 千 壽(宇・若松原)
副部長 老 沼 藤 男(下・石橋中)

地区だより

テクノポリス清原地区
施設めぐり

宇 河 地 区

私たち宇河地区中学校長会では先ず私たちの郷土を知ろうという事でここ数年高度産業技術を導入した工業団地(テクノポリス地域指定)の誘致住宅団地の造成、県立高校の設置、大学の開学等目覚ましい発展を遂げつつある清原地区の施設設備を見学する事にした次第であります。見学コースは最初に清原中学校体育館(3月20日(月)落成式)総額約3億6千万の体育館は一階が柔剣道の格技場であり2階が普通の体育館であります。次に大洋シーフーズ工場がありますが、ここでは色々な種類のソーセージを作っておりますがオートメーション化の進んだ工場と徹底した衛生管理に感心させられた訳です。それから管理センターで昼食をとり、午後は清原体育館(約1万㎡の面積と総額約31億)の雄大な体育館にはただ驚くばかりであった。次に清原球場であります総額約30億の球場は実に見事であり人工芝の美しさがライトに照らし出される事が想像されます。最後に人がいない所を機械が自動的に動き回る日本たばこ産業を見学し、限りなく発展していくこの清原地区に幸多かれと祈願しながら清原地区を後にした次第です。

小山市の研究活動概況

小 山 地 区

小山市中学校11校で平成元年度を出発いたしました。新任校長1名、市外異動者1名、先年度は定年退職者はありませんでした。

小山市中学校部会組織は、会長植野樹郎(間々田中)、副会長塚原規矩郎(小山三中)、庶務会

計津釜和夫(城南中)、監事海老原丘(小山中)です。

研究主題、「21世紀を創造する日本人の育成を旨とする学校経営」=新教育課程への準備と学校経営=、昨年度は、「教育改革の理念とその歩み」「教育課程への対応」の2点に焦点をあて研修、本年度は、昨年の研究を基に、①学習指導要領の改訂のねらい、主な改善点・総則について、②移行措置について、③道徳・特別活動について、研究の方針を立て研究に当る。大門雅典(小山二中)を中心に研修目的達成のため大いに論議を交している。なお、小・中全体研修では、津布楽宇大教授の「新教育課程と学校経営」・上岡白鷗大学長の「私の教育観」のご講話をいただき校長自身の研修を大いに深め、また各学校の現況を報告し、意見の交換をし、学校経営の充実を図っている。

県外視察研修と教育懇談会

上 都 賀 地 区

上都賀地区では、夏休みから秋にかけて二つの大きな行事がある。

1. 地区中学校長会県外優良校訪問研修

上都賀地区は校長32名で研修には適当な人数である。今年は、「めあてをもって活動する生徒の育成は、どうあればよいか」のテーマをもって、新潟県中条町立中条中学校を訪問研修することにした。このことは毎年行なわれているが、校長会としては、1泊2日、あまり遠い所でない場所を選んでいる。校長間の情報交換、訪問研修、とその実をあげる大変よい機会である。

2. 教育懇談会一構成メンバーは、地区校長会役員のOB、現地区校長会役員である。年に1回先輩校長と現校長が、現在の教育のあり方、特に校長としての務めはどうか、語り合う会である。

80才~60才代の元校長が参加し、教育活動の思い出や、先輩として、一社会人としての活躍などを語りかけ、指導などをしてもらっている。

この年一回毎年開かれる教育懇談会を楽しみにしている元校長も多い。大変充実した話し合いである。

栃木市内各校の近況報告

栃木地区

本年度から「個性を生かす教育課程編成の在り方」という主題で研修を推進。7月の下都賀地区教育長部会との懇談会では、新教育課程の編成について地区内29中学校へのアンケート結果を発表し、問題点等を協議した。

次に、栃木市内7中学校の近況を報告する

栃東中 文部省の道徳教育推進校（学家連携・3年間に指定。親子ふれあい活動を展開中。

栃西中 10月12日(木)予定の県中教研理科部会研究大会会場校として、授業研究に励んでいる。

栃南中 2年継続の校舎改築は12月に完了。円形を取り入れた建築、1階は学校開放教室など。

東陽中 赴任して3年目、「気合いと実行」をモットーに、全校一丸となって頑張っている。

皆川中 校舎に続いて親水公園が完成。環境を生かし、文化とボランティア活動を推進している。

吹上中 市教委指定の同和教育研究学校として、同和教育を生き方の関連で追求している。

寺尾中 新校舎竣工を控え、オープンスペース及びセミナーハウスの活用について研究推進中。

本会の研修計画

下都賀地区

本会は、毛塚忠男会長（大平中）を中心に、下記のような研修計画を立て、研修を進めている。進め方については、本会の基本方針(1)共通理解のもとに意志の疎通をはかる、(2)情報交換を深めて教育活動の正常化に寄与するを踏まえている。

1. 研修テーマ
「新教育課程の編成に関する研究」
2. 研修計画（主なもの）
 - 4月 研修テーマの設定、組織づくり
 - 5月 研修テーマの展開の具体策を考える。
 - 6月 新教育課程の編成に関する調査を、栃木市、小山市中学校長会と連携して行う。
 - 7月 「新教育課程の編成を考える」の講話を聞く。（下都賀教育事務所教育課長 若林秀夫先生より）
 - 9月 県中学校長研究大会で、研修の状況について発表する。（猪瀬 博一 国分寺中）
 - 10月 県外教育事情調査
 - 1月 研修のまとめと反省
 - 2月 次年度への方向づけの具体化

強い絆で

那須地区

那須地区には26校の中学校があり、26人の校長は強い連帯意識の下に日々の教育活動に取り組んでいる。

研修は各市町村毎に実施されているが、全体としては4回の研修会をもっている。

本地区の長い伝統となっている特色ある行事としては、8月の塩原中で行なわれる研修会のあと今年退職された校長先生方をお招きして行なわれる中学校長教育懇談会がある。

今年は、塩原温泉の会上津屋に、退職された9名全員の方の参加をいただいて、塩原温泉のいで湯につかり、箒川のせせらぎを耳に、夜のふけるのも忘れ、教育談議に花を咲かせ、真夏の夜のひとときを楽しく有意義に過ごしていることである。新任の校長と退職された校長との間に強い絆で結ばれ、かくして「那須の教育の灯」は受け継がれてゆくのである。

第18回全日本中学校特別活動研究会栃木大会 「一人一人の生徒を伸ばす 特別活動」

栃中教研特別活動研究会長

武井岩夫

8月8日(火)9日(水)の両日、藤原町あさやホテルにおいて、第18回全日中特活研究会栃木大会を開催しました。全国から約600名の先生方の参加を得て、熱気あふれる大会となりました。

第1日目は開会式に引き続いて、千葉大教育学部教授の坂本昇一先生には、「学級活動と体験学習の進め方」と題する記念講演をお願いし、新し

い学習指導要領の趣旨を踏まえた、特別活動の今後の在り方に大きな示唆を与えていただきました。昼食時のアトラクションとしては、藤原中学校の吹奏楽部演奏、三依中学校の関白流三依獅子舞、川治中学校の川治太鼓を披露していただき、迫力に富んだ内容であっただけに、参加者に多大な感銘を与えました。第1日目のメインとも言うべき生徒発表では、栃木東中学校の「僕らの東中祭」逆川中学校の「地域の方に学ぶ勤労生産活動」久下田中学校の「郷土芸能糸とり唄の伝承」等、栃木県ならではの特色に満ちた生徒活動の一端を発表させていただきました。昨年度の開催県であった徳島県の先生方から、栃木大会の生徒発表は

私の朝会訓話

－ 自己を知ること －

（スポーツテストの実施に際して）H・1. 6.15(木)

鹿沼市立南摩中学校長 鈴木 繁

今日はスポーツテストの日です。そこで、この調査の目的について、しっかりと理解してもらいたいと考え、すこしお話をしたいと思います。大事なことなので、よく聞いてください。

学校では、この他にもいろいろな調査や検査をしております。例えば、年度の初めには必ず身体計測や内科・歯科の検診があります。このことからみなさんは、県や全国との比較から自分の体位を知ることができます。また、専門のお医者さんから、疾病や欠陥の有無について知らされ、自分自身の健康状態について情報を得ることができます。今月の第1週には中間学力テストがありましたが、あれは今学期になってから学習した内容がどの程度理解され、またその内容がどのように学力として身につけているかを知るための調査であります。すでにみなさんの手元に成績票が渡されていると思いますが、みなさんはみなさんで、

自分の学習に関する実態を見せられて、自分の勉強のしかたを反省したり、この次にはうんと頑張るって良い成績をとってやろうなどと決意を固めたりすることがあると思います。

さて、今日これから行われるスポーツテストも体力の面から見て、自分はどういう人間であるかを知るための検査である訳であります。投力や跳躍力や走力など多角的なテストを行って自己の体力を知る。そして優れている点と劣っている点とを知って、さらにすべての面で優れた自分自身を創り上げていく努力を積み重ねていく。

自分自身について正しく知る、ということは、自分自身を限りなく向上させるために、もっとも初めに考えなければならないことでもあります。いつでも謙虚に、真面目に、自己を知るための努力を続けることは、極めて大切だと思います。どうぞ正確なデータを得よう頑張ってください。

土の匂いのする内容であり、教育の原点を見る思いがした等の高い評価なども得ました。

第2日目は分科会を開催しました。第1分科会では、一人一人が意欲的に取り組む生徒会活動の在り方。第2分科会では学級会活動と学級指導の統合の問題。第3分科会では、個性を伸長し、連帯感を培うクラブ活動の在り方。第4分科会では一人一人の創意を生かす学校行事の在り方。第5分科会では、自己を見つめ、生きがいを育てる進路指導の在り方等に取り組み、協議を深めることができ、好評裡に大会を終了することができました。最後になりましたが、本大会の準備、運営等にご尽力をいただいた特活部会の先生方を始め、県教委、県中学校長会、県中教研、藤原町教委の先生方に改めてお礼申しあげます。

第38回全国へき地教育研究大会 第6回関東甲信越地区へき地教育研究大会

栗山村立湯西川中学校
校長 瓦井 芳夫

平成元年10月4、5、6日の3日間、第38回全国へき地教育研究大会が本県で開催された。

本大会は、戦後の混乱期の昭和26年、へき地教育のあるべき姿を模索する全国の教師たちが岐阜県高山に集まり、「小さい学校全国大会」を開催し、へき地・小規模校の悩みを語り合い、翌昭和27年に第1回全国大会が北海道で開催されたことに端を発している。

その後、研究大会開催の意義と研究内容を高める必要から、長期研究計画を策定し、組織的・継続的・計画的に研究活動を進めてきている。

今回は、第2次5か年研究推進計画の第1年目に当たり、「郷土を愛し、たくましい実践力をもって、主体的・創造的に生きる子どもの育成」との全国主題のもとに栃木大会が開催されたわけである。

第1日目は、宇都宮市文化会館で、県外約800名、県内約500名の参加者、熱海則夫文部省初等中等

教育局審議官、渡辺文雄栃木県知事、その他多くの来賓や関係者のご出席を得て全体会が開催された。その際、医師であり、作家でもある見川鯛山先生の「へき地万歳」と題した記念講演は、参加者に大きな感銘を与え、好評であった。

第2日目の分科会は、県内8会場中2会場が中学校で、藤原町立三依中学校、栗山村立栗山中学校である。

三依中学校は「豊かな心を持ち、ふるさとに生きる生徒の育成」を研究主題に、道德教育を中心として、栗山中学校は「自ら考え、自己表現できる生徒の育成」を研究主題に、特別活動を中心として、共に学校・学級経営の課題領域で発表した。

生き生きとした生徒の活動状況、確かな研究内容と実践についてのすばらしい研究発表、地域ぐるみでのあたたかい接遇等、各校約130名の参加者は大きな満足感と感動を味わったようであった。

なお、3日目の分科会も充実したものであった。